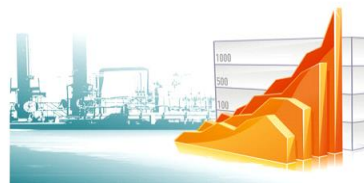


ぎふ経済レポート



令和3年6月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは 6月24日～28日を中心に実施し、7月9日時点で作成。

景気動向

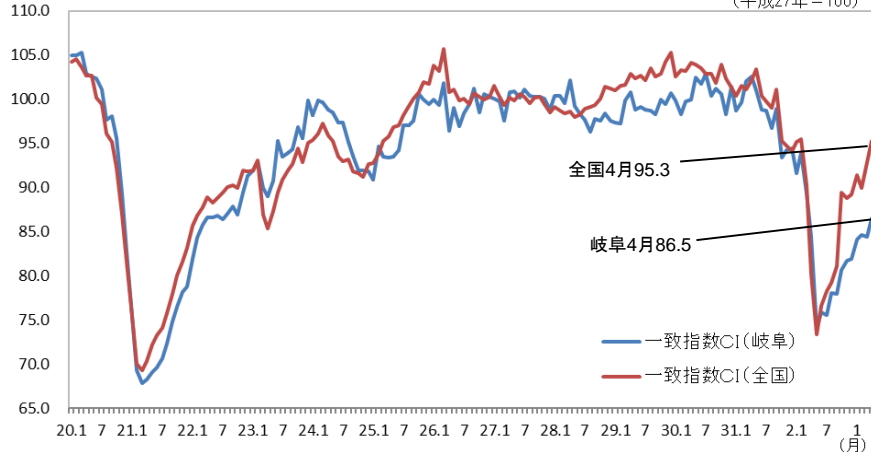
○4月の景気動向指数(一致指数)は、86.5で前月比2.1ポイント上昇した。

○5月の県内中小企業の景況感は、▲41で前月比▲6ポイント低下した。

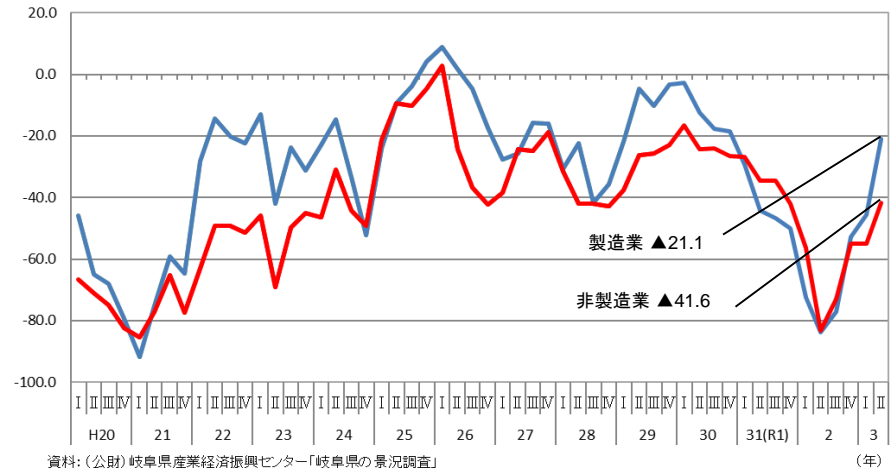
○4-6月期の景況DIは、製造業で24.4ポイント、非製造業で13.3ポイント上昇した。

○同売上高DIは、製造業で52.1ポイント、非製造業で36.8ポイント上昇した。

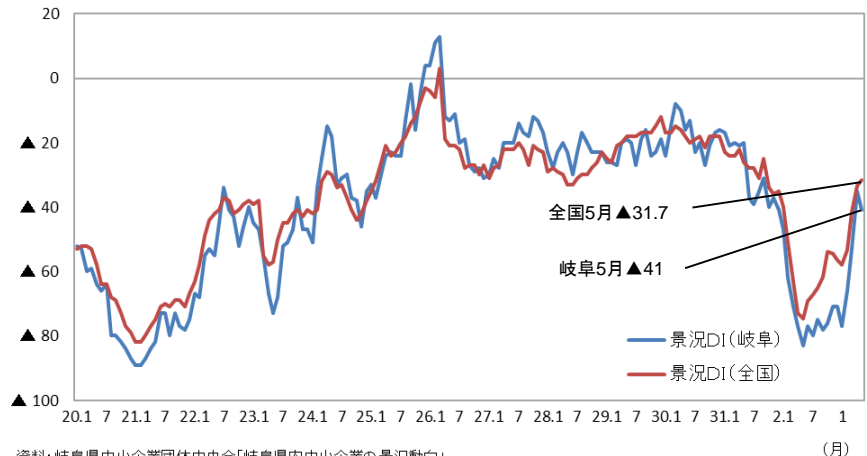
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移 (平成27年=100)



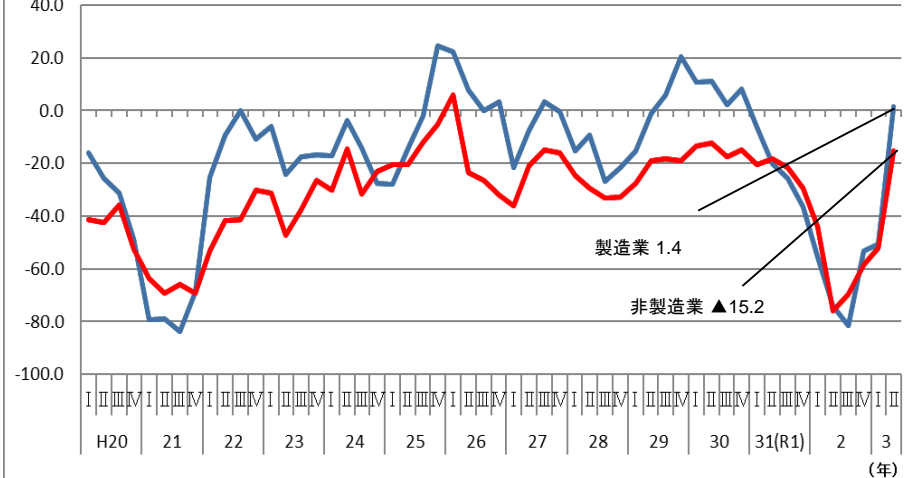
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



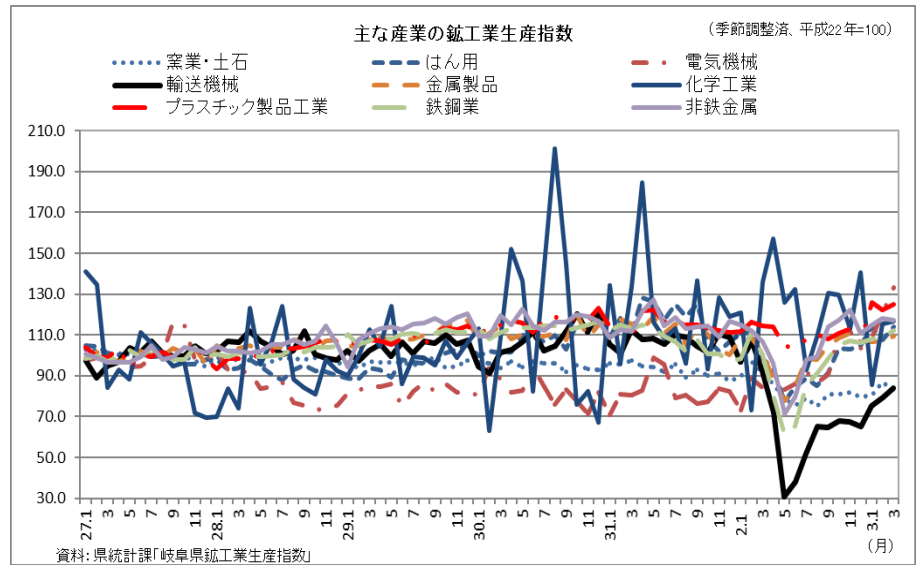
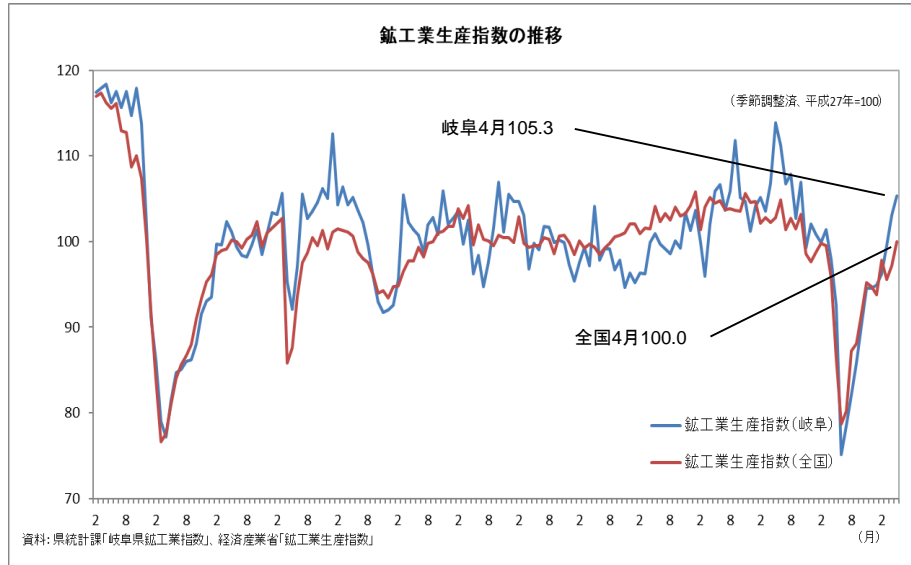
県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



製造業

- 4月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、105.3で前月比2.1%と上昇。
- 主な産業の前月比では、化学工業と鉄鋼業のみ低下し、多くの産業で上昇した。

- 4月の主な産業の指数は、化学工業で前月比▲17.2%、鉄鋼業同▲1.2%と低下したものの、電気機械で同10.0%、輸送機械で同5.4%、はん用で同2.9%、非鉄金属で同2.3%、プラスチック製品工業で同1.4%、金属製品で同0.6%となり、多くの産業で上昇した。



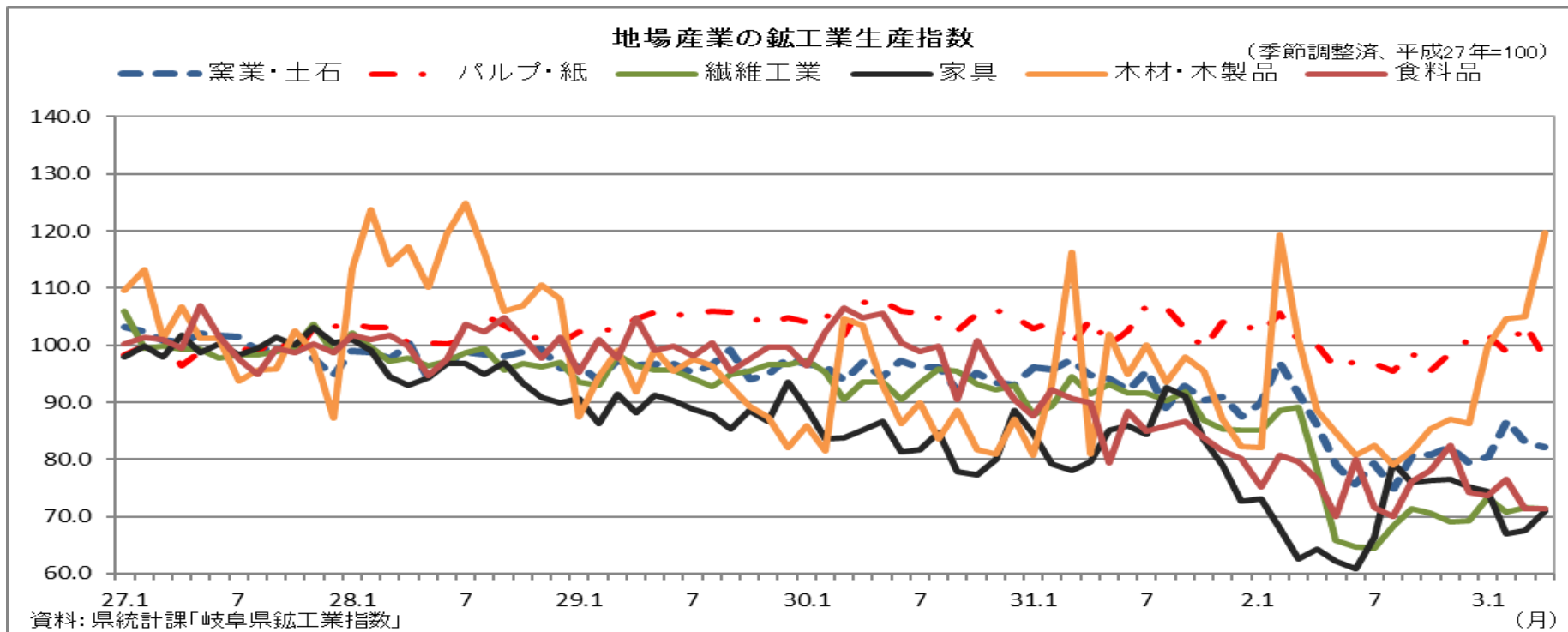
現場の動き

(※新型コロナウイルスや半導体関連、原材料価格の影響はP6にも掲載)

- ◆ 中国と北米向けの輸出は好調が続いている。(輸送用機械)
- ◆ 国内工場の稼働率は150%となっており、人手が不足している。自動車、自転車部品が好調である。(非鉄金属)
- ◆ 自動車関係の開発、設計の遅れが戻ってきており、受注が増えている。(生産用機械器具)
- ◆ 環境問題に対応した商品の使用をメーカーが発表しているため、商品開発が活発化している。(プラスチック製品)
- ◆ 電子材料関連の取引は引き続き堅調に推移している。はん用化学薬品の輸出や自動車関連は需要が回復してきたものの、外食関連の需要が戻ってこない。(輸送用機械)
- ◆ 工作機械関係は110%程度の稼働率を見込むが、自動車関係の国内受注の見通しは不透明。(電気機械)
- ◆ 農機具や建設機械部品は堅調が続くが、中国の建機需要の先行きに不安が出ている。(生産用機械器具)

製造業-2

○4月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、パルプ・紙で前月比▲5.7%、窯業・土石で同▲1.1%、繊維工業で同▲0.4%と低下したものの、食料品で横ばい、木材・木製品で同14.1%、家具で同4.9%と上昇した。



現場の動き

(※新型コロナウイルスや半導体関連、原材料価格の影響はP6にも掲載)

- ◆ コロナ禍前の売上水準に戻りつつある。木工・家具業界は巣ごもり需要の恩恵を受けていると思われる。(木工)
- ◆ 力を入れてきたEC販売は好調だが、まん延防止等重点措置によりお土産の売れ行きが落ち込んだ。(食品)
- ◆ 去年は巣ごもり需要があり、障子紙・ふすまが好調であったため、今年は前年同月比で▲4%減少した。食品関係はやや回復傾向にあるが、お土産関係は依然として低調である。(紙)
- ◆ 飲食店向け等の業務用の売上が落ち込んでいる。(窯業)
- ◆ コロナ禍前と比較して売上は半分以下まで減少し赤字が続いている。(繊維)

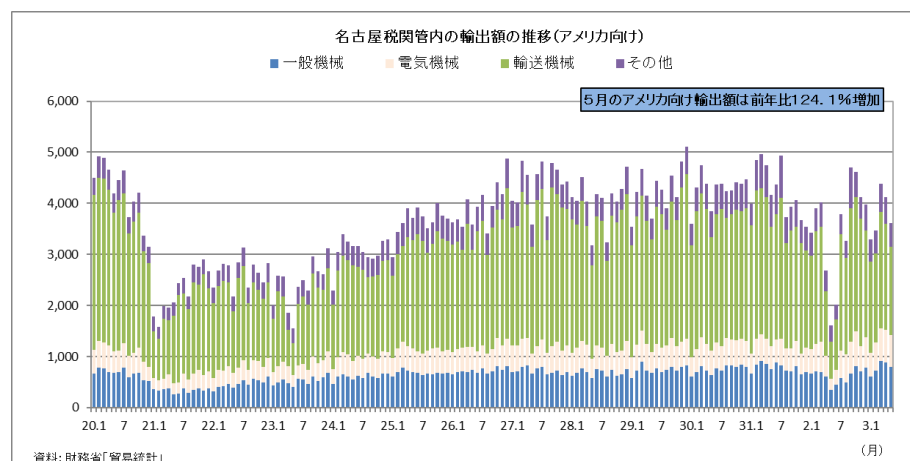
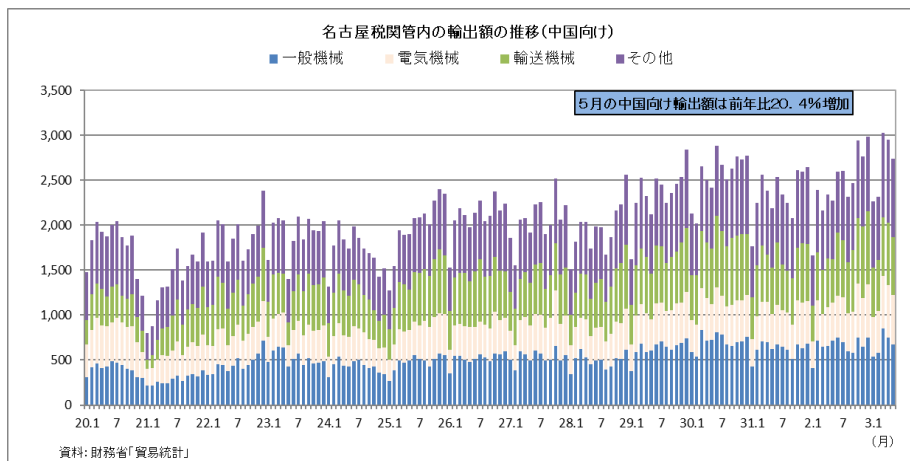
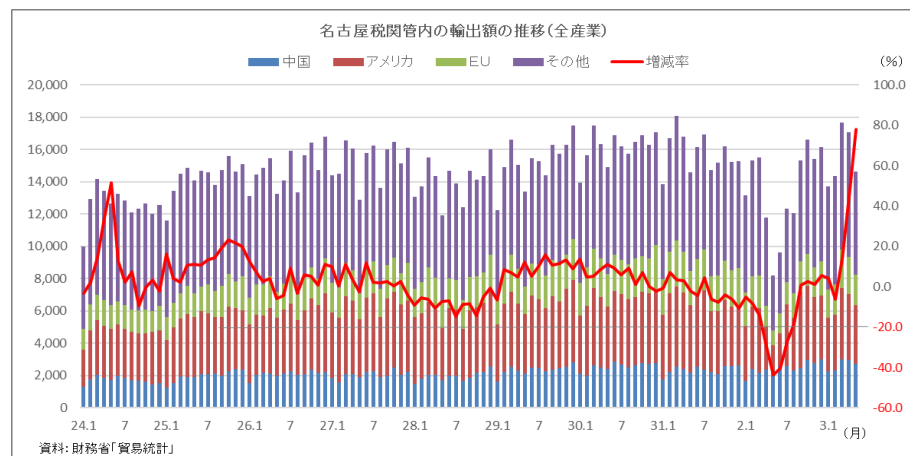
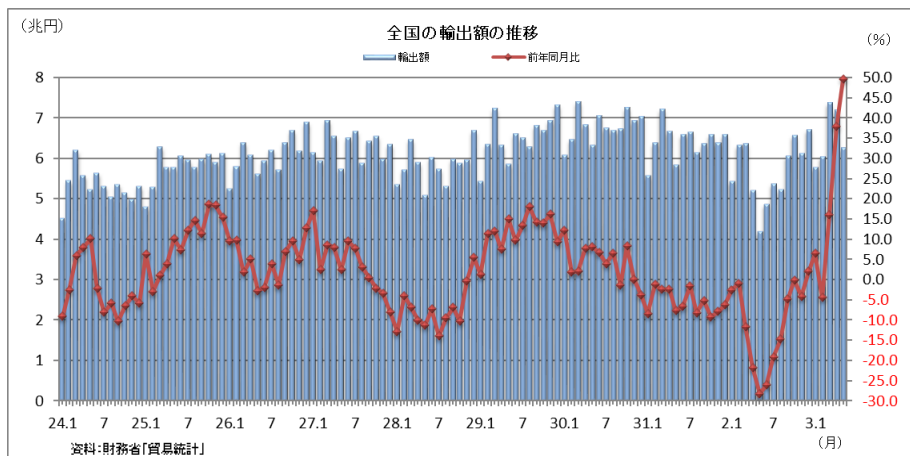
輸 出(名古屋税関管内)

○5月の輸出額(全国)は、6兆2,599億円で前年同月比49.6%増加した。

○5月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆4,625億円と増加し、3ヶ月連続で前年同月を上回った。

○中国向けは、全体で前年同月比20.4%増加した。その内、輸送機械で同34.2%、電気機械で同27.8%増加し、一般機械で同▲5.2%減少した。

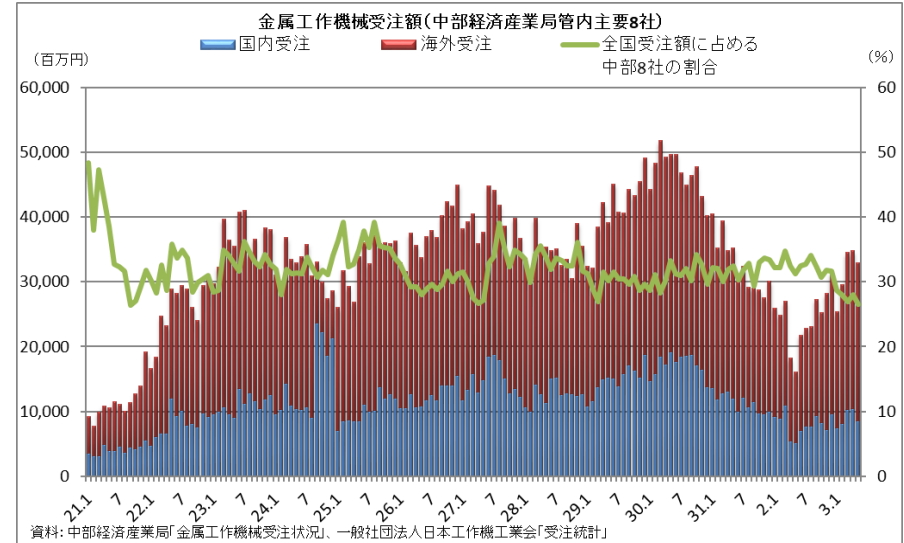
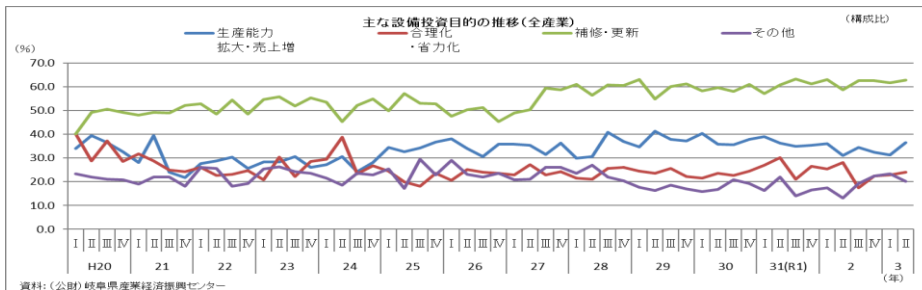
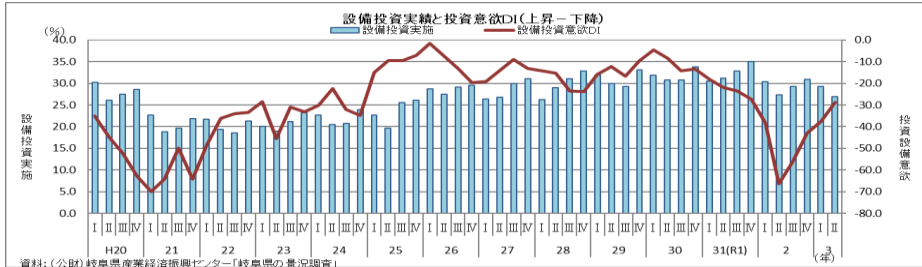
アメリカ向けは、全体で前年同月比124.1%増加した。その内、電気機械で同188.6%、輸送機械で同136.0%、一般機械で同131.8%増加した。



設備投資

○4－6月期の設備投資実施DIは前期比▲2.3ポイント低下、設備投資意欲DIは同8.8ポイント上昇。設備投資実施DIの目的別では、「生産能力拡大・売上増」で前期比5.1ポイント、「合理化・省力化」と「補修・更新」で、同1.2ポイント上昇した。

○5月の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比105.1%増加と4ヶ月連続で前年を上回った。内訳は国内受注では同64.9%増加と2ヶ月連続、海外向けは同124.2%増加と7ヶ月連続で前年を上回った。



現場の動き (※新型コロナウイルスや半導体関連、原材料価格の影響はP6にも掲載)

- ◆ 設計用の機械を随時更新する予定。(電気機械)
- ◆ IT関連への設備投資は積極的に取り組んでいる。(生産用機械器具)
- ◆ 新設計システムの導入を行う予定。(生産用機械器具)
- ◆ 合理化のため、生産の自動化を進めている。(プラスチック製品)
- ◆ 今後10年で製造工程の自動化を図っていく。(プラスチック製品)
- ◆ 本社敷地内に工場の新設を進めており、来年夏の完成、秋からの操業を予定している。国のサプライチェーン補助金を申請したが対象外となった。(輸送用機械)
- ◆ 具体的な設備投資の構想があるものの、今期は難しいと考えている。(生産用機械器具)

製造業関係における新型コロナウイルスの影響について

- ◆ 6月は受注に一服感が見られたが、回復基調にあることは変わっていない。(生産用機械器具)
- ◆ 出来る限り控えていた海外出張を再開した。(生産用機械器具)
- ◆ まん延防止等重点措置の影響は、特に受けていない。(生産用機械器具)
- ◆ 大型工作機械関係の受注は、6月には回復することを予想していたが、動きが鈍い。(金属製品)
- ◆ 緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響により、売上が伸び悩んだ。(プラスチック製品)
- ◆ まん延防止等重点措置の期間中は、来客が減少した。(生産用機械器具)
- ◆ 技能実習生に対しても感染症対策の周知徹底を図っている。(プラスチック製品)

半導体不足の影響について

- ◆ 今のところ影響を受けていない。(生産用機械器具)
- ◆ 装置に使う半導体の入荷が多少遅れた程度と、当社は大きな影響を受けていない。(電気機械)
- ◆ 全ての自動車メーカーが減産していることからティア1からの受注は減少しているものの、各社はメーカーの挽回生産を予測しているため、大幅な受注の減少には至っていない。(生産用機械器具)
- ◆ 6月も好調に推移したが、自動車製造業界における半導体不足の影響が出始めた影響により、5月と比較して売上の増加は鈍化する見込み。(輸送用機械)
- ◆ 半導体不足の影響が徐々に当地区の大手自動車メーカーへも波及している。半導体生産工場の復旧が遅れているため、メーカーが保有する半導体の在庫が目減りしており、小型車のラインが一部で止まっている。当社は7～9月にかけて生産の繁忙期を迎えるため、この影響を受けざるを得ない。(輸送用機械)
- ◆ 海外工場向けの輸出量が減少している。(非鉄金属)

原材料価格について

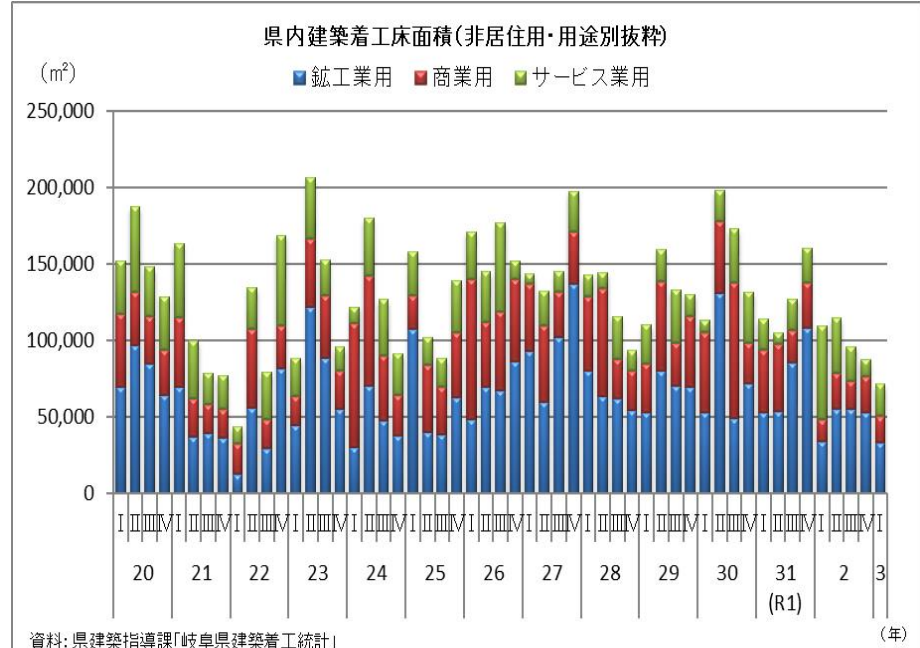
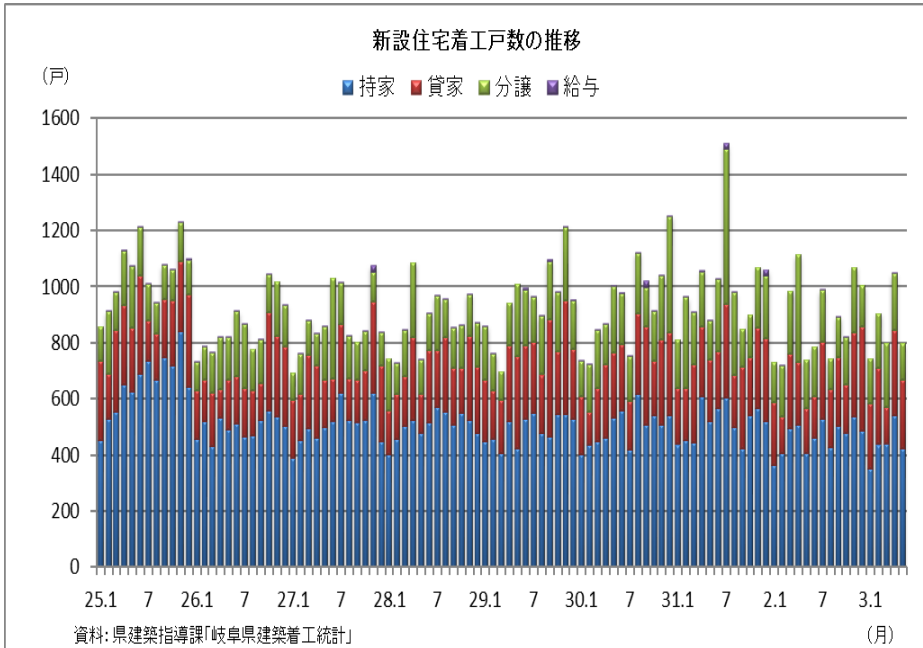
- ◆ ナフサ(石油化学製品の原料として重要な油)の価格は安値で安定している。塗装用の特殊塗料については、アメリカからの供給不安の動きを懸念していたが、国産で補うことができる程度で済んだ。(輸送用機械)
- ◆ アルミ価格は高止まりが続いており、先行きが見通せない状況にある。(輸送用機械)
- ◆ 原料樹脂価格は高値圏での推移が予想されている。鋼材価格も中国需要を背景に値上げの動きがある。(輸送用機械)
- ◆ 鋼材価格の値上がりの影響が7月から出る見込みであり、当社も製品の値上げを検討している。(非鉄金属)

住宅・建築投資

○5月の住宅着工戸数は、前年同月比8.0%と増加した。

○貸家で前年同月比54.4%、持家で同4.0%増加、分譲で同▲24.7%減少した。

○1-3月期の非居住用の建築着工床面積は、商業用で前年同月比17.1%と増加したものの、サービス業用で同▲65.7%、鉱工業用で同▲1.5%と減少し、全体として同▲35.0%と減少した。



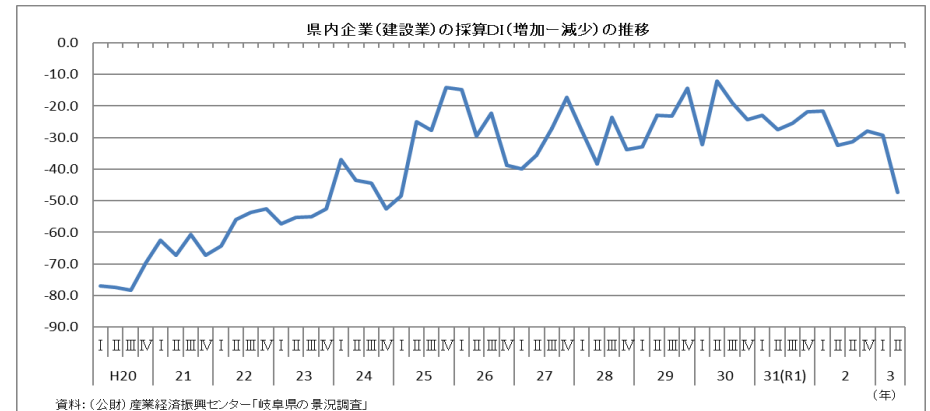
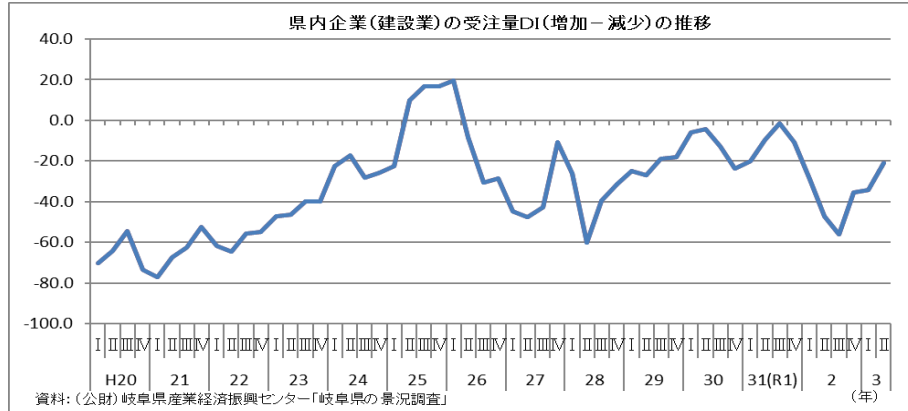
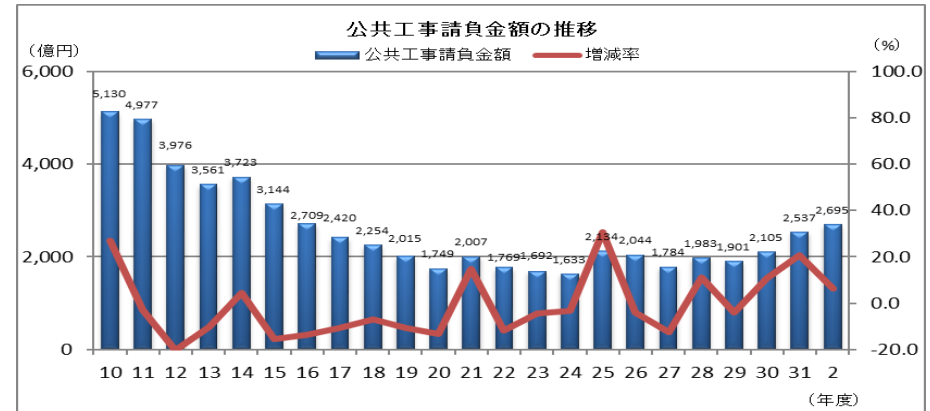
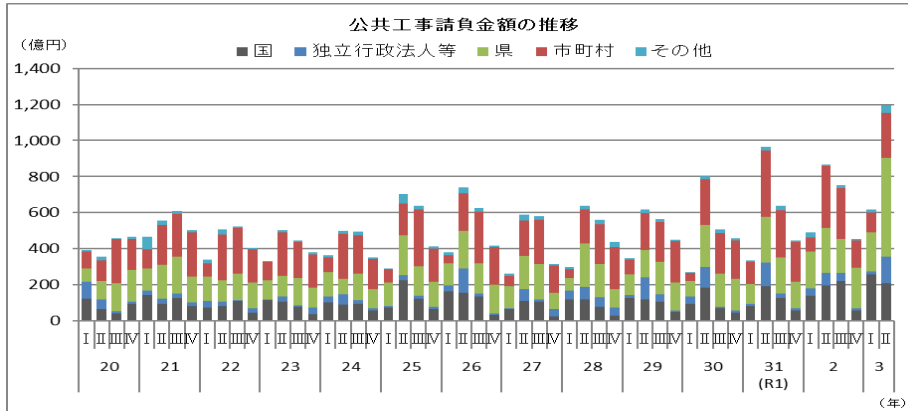
現場の動き

<ウッドショックの影響>

- ◆ もともと県産材を使用していたため、今のところ木材調達に関して支障はない。契約数は前年同月比で1割増加し、数ヶ月先の受注を確保している。(工務店)
- ◆ 木材の需要が多く、常に不足状態にある。県外産材が手に入らない状況。(組合)
- ◆ 材の確保が厳しい案件が出ている。今後も納期の延期等を含め、対応が必要となる案件が発生する可能性が高い。(木材加工)
- ◆ 原木価格が上昇しており、製品価格について5月から値上げ交渉を毎月実施している。(木材加工)

公共工事

- 4－6月期の発注者別の公共工事請負金額は、市町村で前年同期比▲27.6%と減少したものの、国で同119.3%、独立行政法人等で同109.1%と増加するなど、全体で同37.5%増加した。
- 県内建設業の4－6月期の受注量DIは前期比13.5ポイント上昇したものの、同採算DIは同▲18.0ポイント低下した。



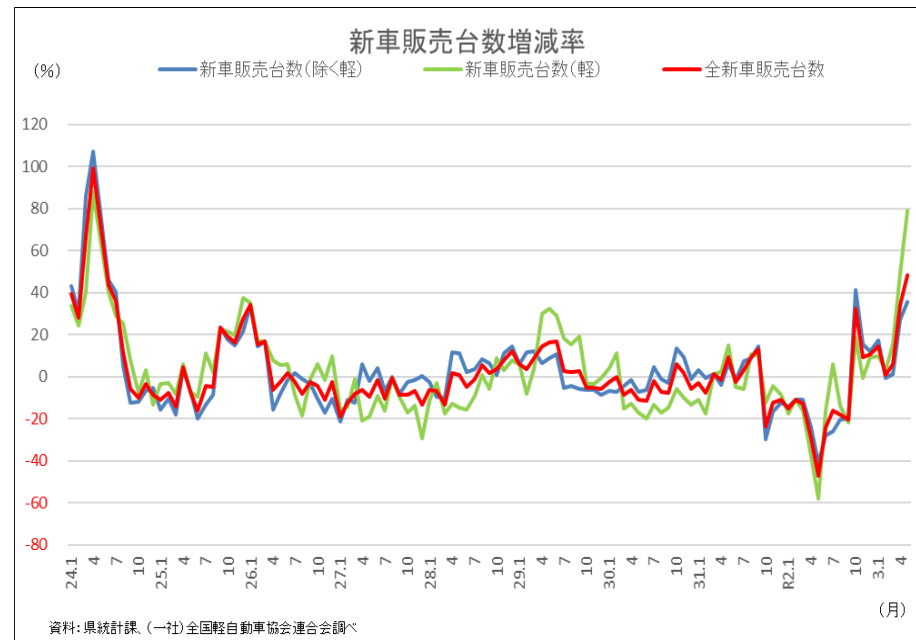
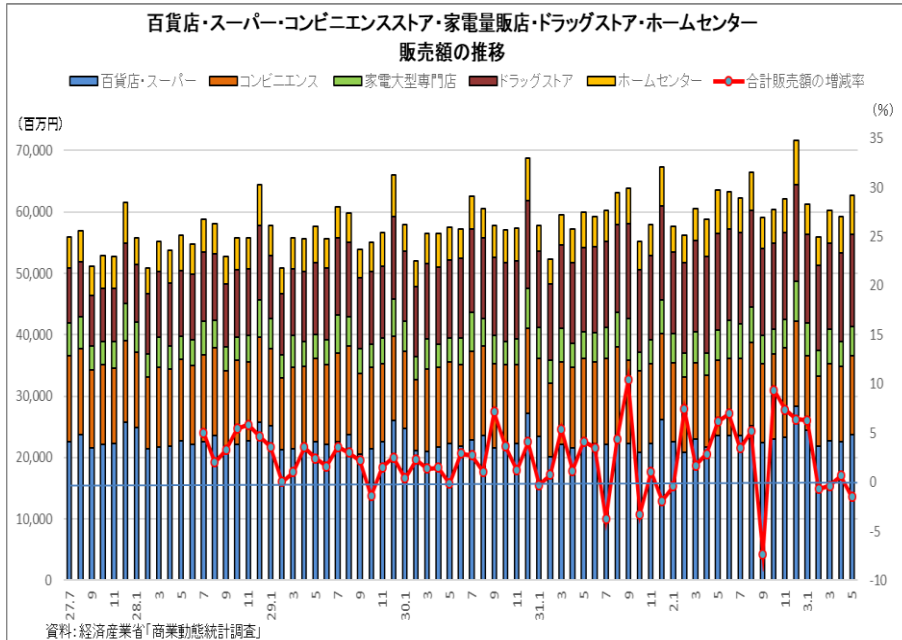
現場の動き

- ◆ 予算減少の影響と思われるが、工事の発注数が少なく感じる。
- ◆ チャレンジしたい入札があっても、技術者不足により参加できないケースがある。
- ◆ 交通誘導警備員については、慢性的に不足している。(以上、建設)

個人消費(流通・小売)

○5月は、コンビニで前年同月比4.1%、百貨店・スーパーで同0.6%と増加したものの、ホームセンターで同▲10.0%、ドラッグストアで同▲5.4%、家電大型専門店と同▲1.2%と減少し、全体では同▲1.5%と減少した。

○5月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比35.8%と3ヶ月連続で前年同月を上回った。軽自動車は同79.0%と6ヶ月連続で前年同月を上回った。合算では同48.5%と、8ヶ月連続で前年同月を上回った。



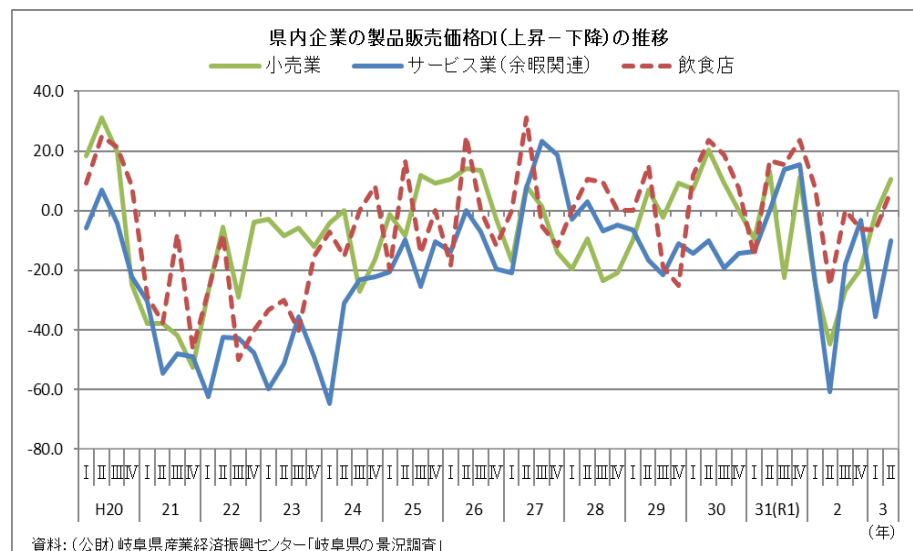
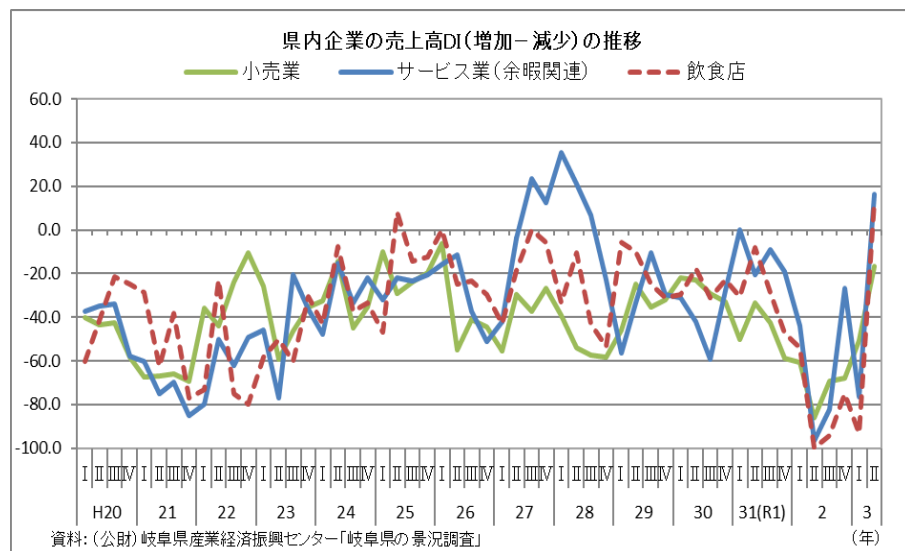
現場の動き

- ◆ 売上は前年同月比で10%増加。店舗リニューアルを行ったほか、客単価の上昇を狙って生鮮部門を強化した。(岐阜市内スーパー)
- ◆ 前年同月比では売上は減少したものの、コロナ禍前と比較するとかなり売上は伸びている。一方で、立地状況が影響しているのか、客足は戻っていない。商圈が狭くなっているように感じており、客単価を上げることができるよう工夫している。(大垣市内商業施設)
- ◆ 既存店舗の業績が回復していけば、新規のテナントから出店の申請が出てくるのではないかと。(岐阜市内商業施設)

個人消費(流通・小売)ー2

○4-6月期の売上高DIは、飲食店で前期比106.6ポイント、サービス業(余暇関連)で同92.6ポイント、小売業で同34.0ポイントと上昇した。

○同じく販売価格DIは、サービス業(余暇関連)で前期比25.5ポイント、飲食店で同13.2ポイント、小売業で同11.9ポイントと上昇した。



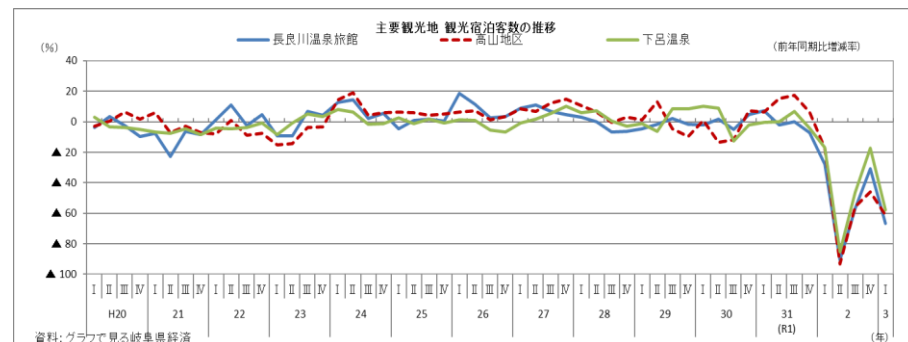
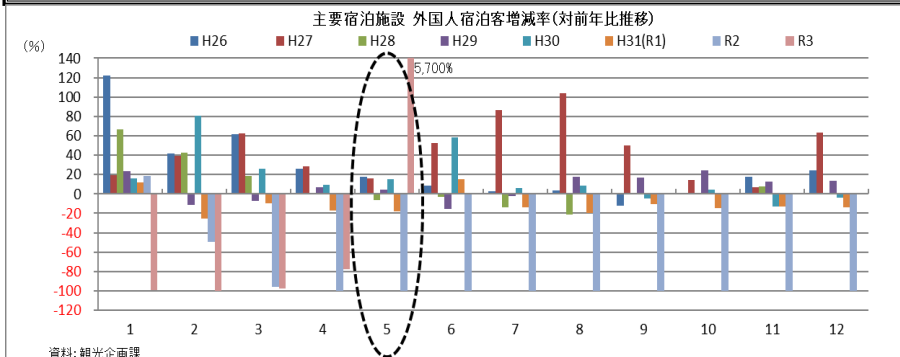
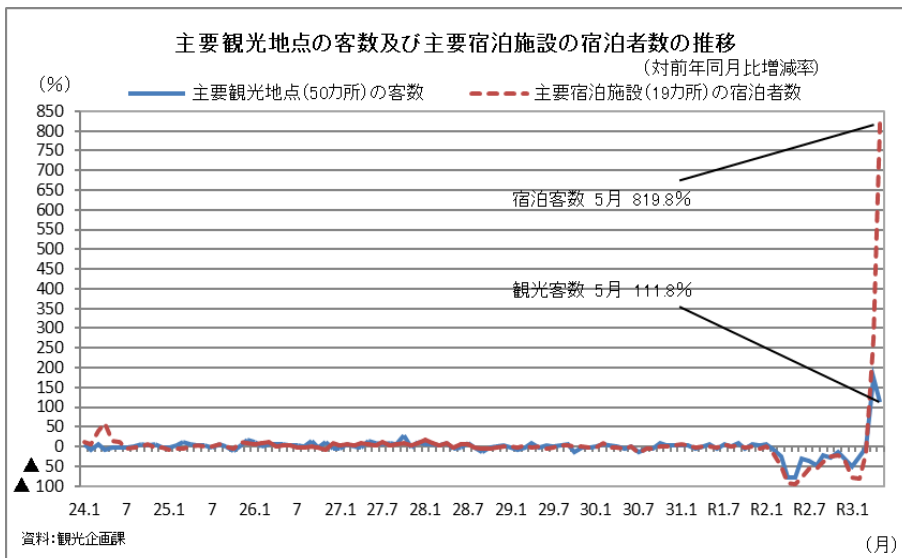
現場の動き

- ◆ 規模を大幅に縮小してイベントを開催。飲食店に対する酒類提供等の自粛要請により、店舗の多くは休業した。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 日用・雑貨店では、前年同月比で売上は▲20%減少。特に法人向けの注文が激減した。和菓子店では、まん延防止等重点措置の影響で遠方からの来店が減少し、売上は前年同月比で▲10%程度減少した。(以上、大垣市商店街)
- ◆ 酒店では、飲食店向けの販売は激減したものの、多治見市の「イエ呑みGOキャンペーン」の効果で個人客向けの販売が増加したため、全体の売上は前年同月比で増加した。時計・宝石店では、時計の修理や備品の購入が多く、単価が低いため、売上は非常に厳しい状況。(以上、多治見市商店街)

観光

○主要観光地における5月の観光客数は、前年同月比111.8%と増加したが、コロナ前の前々年同月比では▲52.9%となっている。主要宿泊施設における宿泊者数は、前年同月比819.8%と増加したが、前々年同月比では▲70.7%となっている。

○5月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比で5,700%の増加と16ヶ月ぶりに増加に転じたが、コロナ前の前々年同月比では▲99.7%と減少している。

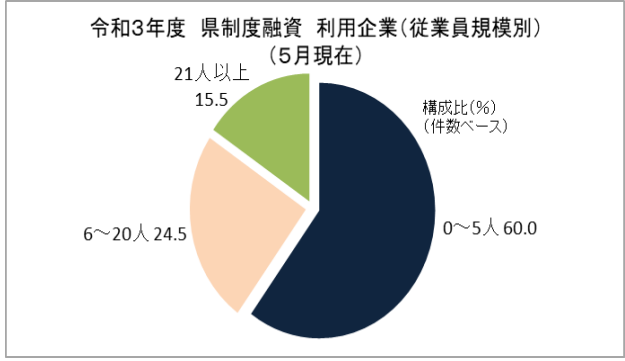
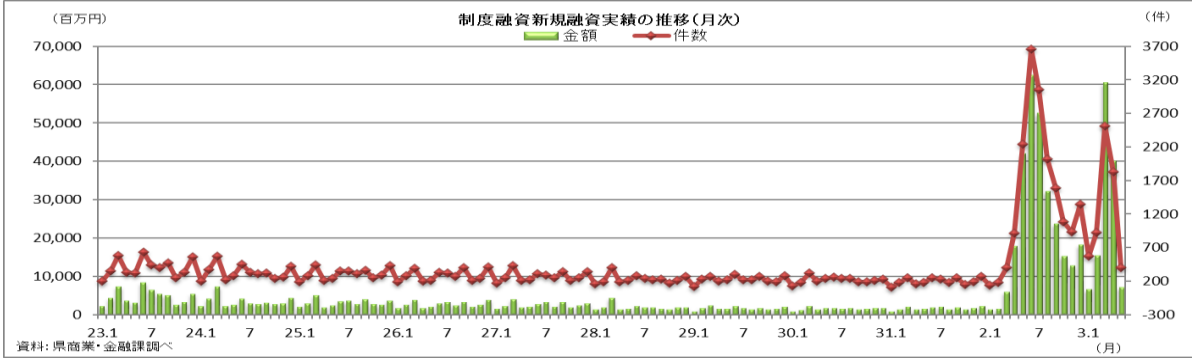
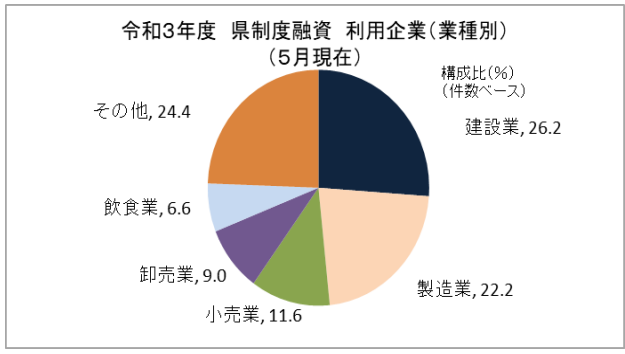
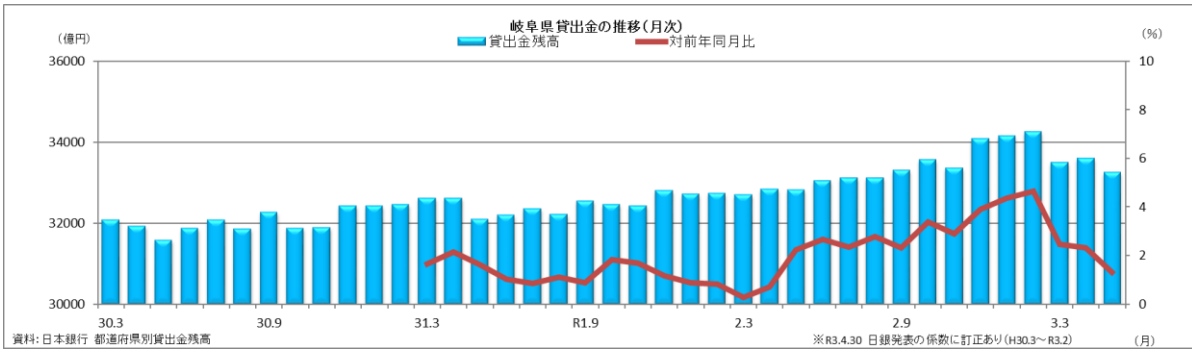


現場の動き

- ◆ 平日の予約数は、前々年(コロナ前)と比較して20%程度しかない。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆ 団体、個人予約ともにほとんどない。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆ 売上は、前々年と比較して、6月は10%程度しかない。(高山市内の宿泊施設)
- ◆ 6月、7月は休館日を設定している。(岐阜市、大垣市、郡上市、恵那市、高山市内の宿泊施設)
- ◆ まん延防止等重点措置に伴うアルコール類の提供の自粛要請が、経営面で苦しい。(岐阜市、高山市、下呂市内の宿泊施設)
- ◆ 雇用調整助成金が終了すればリストラをしなければならない可能性が高い。(郡上市内の宿泊施設)
- ◆ アフターコロナを見据えた人員確保が課題となっている。(恵那市内の宿泊施設)

資金繰り

○5月の岐阜県貸出金残高は、3兆3,249億円で前年同月比1.3%とプラス基調が続く。
 ○5月の制度融資実績は、金額が7,230百万円で前年同月比で▲82.8%と18ヶ月ぶりに減少に転じた。件数は404件で同▲82.0%と15ヶ月ぶりに減少に転じた。
 ○従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の60.0%を占めている。

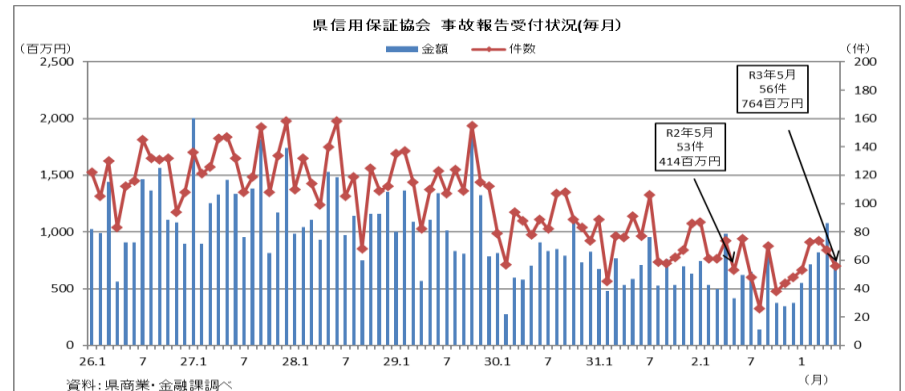
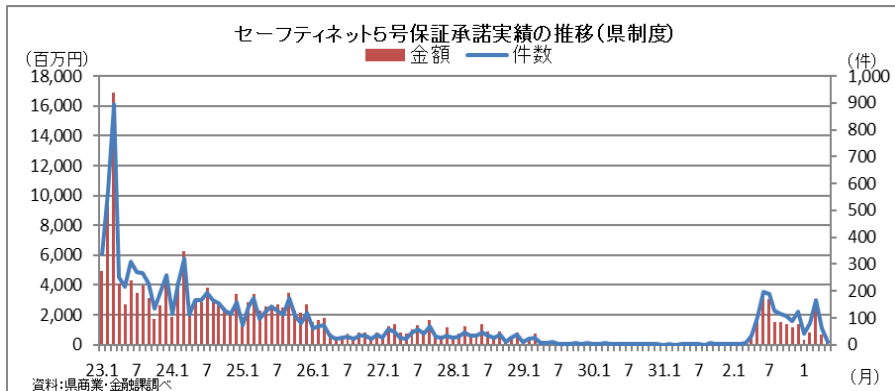
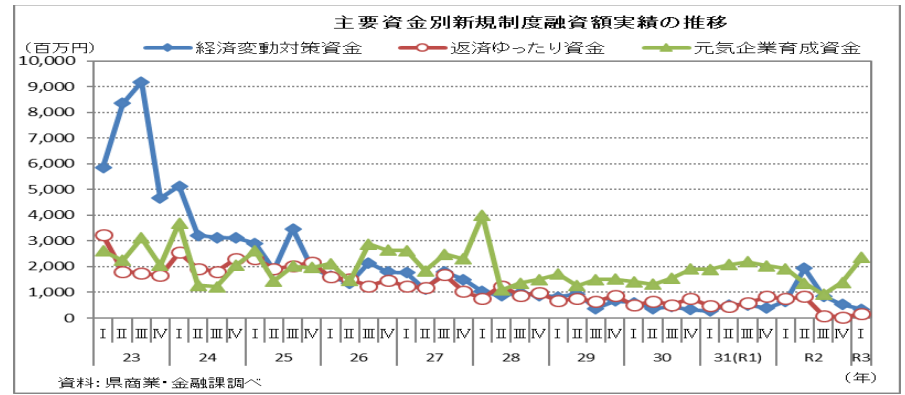
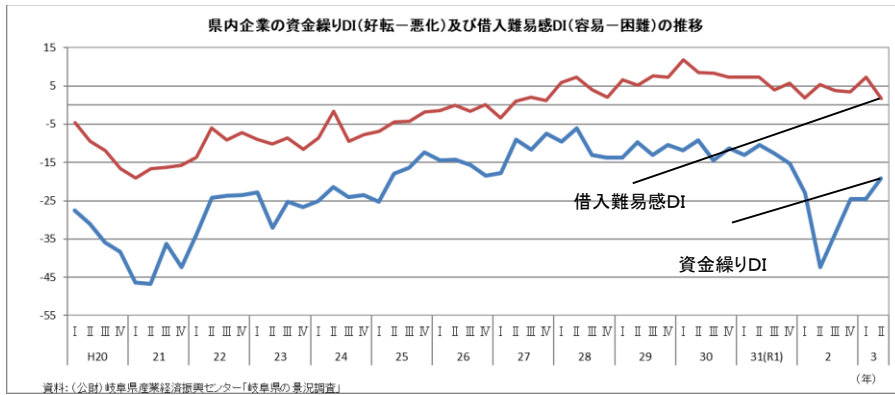


現場の動き

- ◆ 新型コロナウイルスの感染拡大の第4波は、資金需要に特段の影響を与えなかった。
- ◆ 国の事業再構築補助金等の公的支援の効果により、借入需要は弱まっている。
- ◆ 実質無利子・無担保融資の実行が5月末で終了し、融資実績は前々年の水準に落ち着いている。
- ◆ 県の新型コロナ経営改善資金について、少しずつ借入の相談が寄せられている。
- ◆ 実質無利子・無担保融資による資金調達によって手元資金に余裕があることも影響していると考えられるが、事業者は新たな資金調達に対して消極的である。(以上、金融)

資金繰り-2

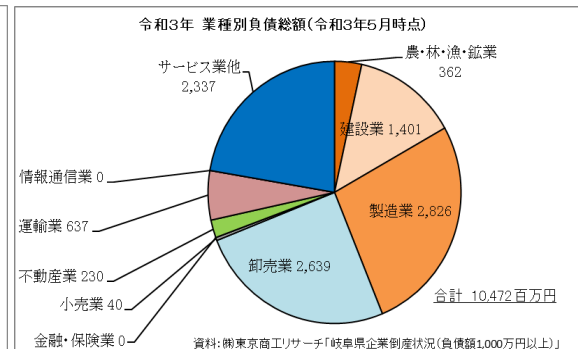
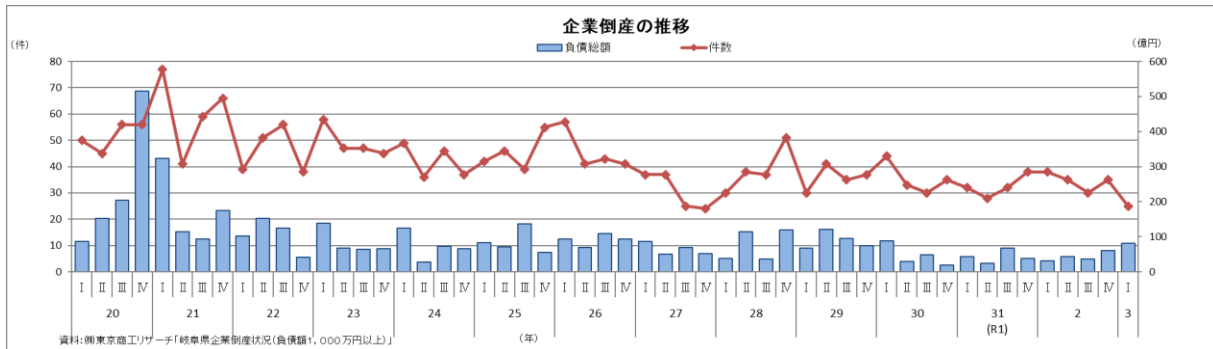
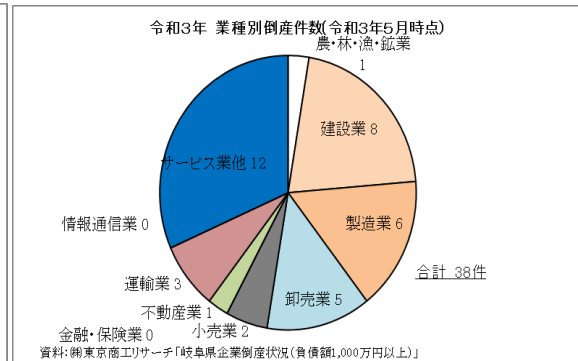
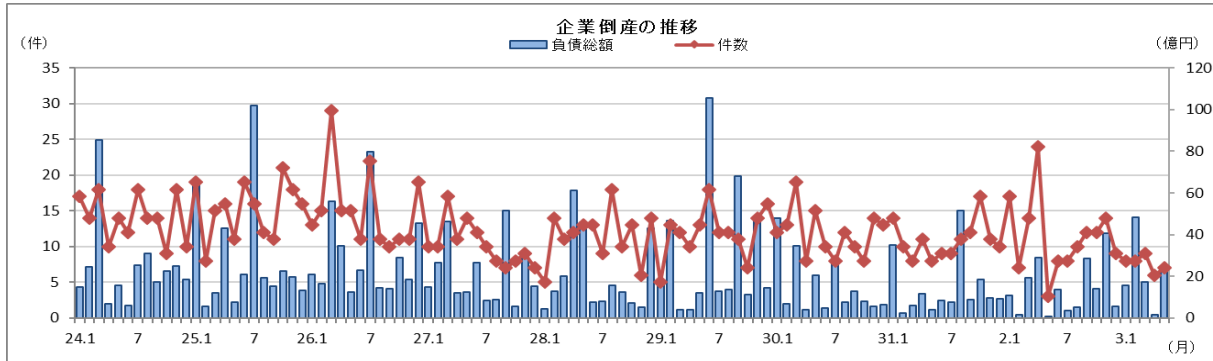
- 4-6月の資金繰りDIは▲19.2で、前期比5.4ポイント上昇。同借入難易感DIは1.7で、同▲5.6ポイント低下した。
- 1-3月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比▲46.3%と8期ぶりに減少、返済ゆったり資金で同▲78.4%と3期連続で減少、元気企業育成資金は同23.2%と4期ぶりに増加となった。
- 5月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が12件で前年同月比▲93件減少、金額は157百万円で同▲1,441百万円減少した。
- 5月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は56件で前年同月比5.7%増加し、金額は764百万円で同84.5%増加した。



倒産

○5月単月の倒産件数は前月比1件増加の7件、負債総額は前月比2,060百万円増加の2,220百万円となった。

○1月から5月までの累計倒産件数は38件となり、前年同期の65件から27件減少。累計負債総額は10,472百万円となり、前年同期の6,093百万円から4,379百万円増加で推移した。



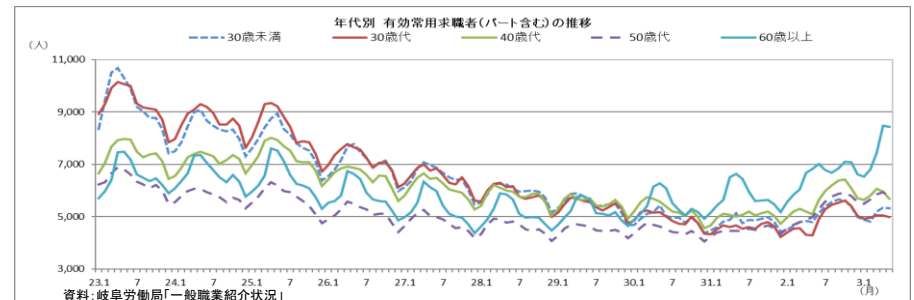
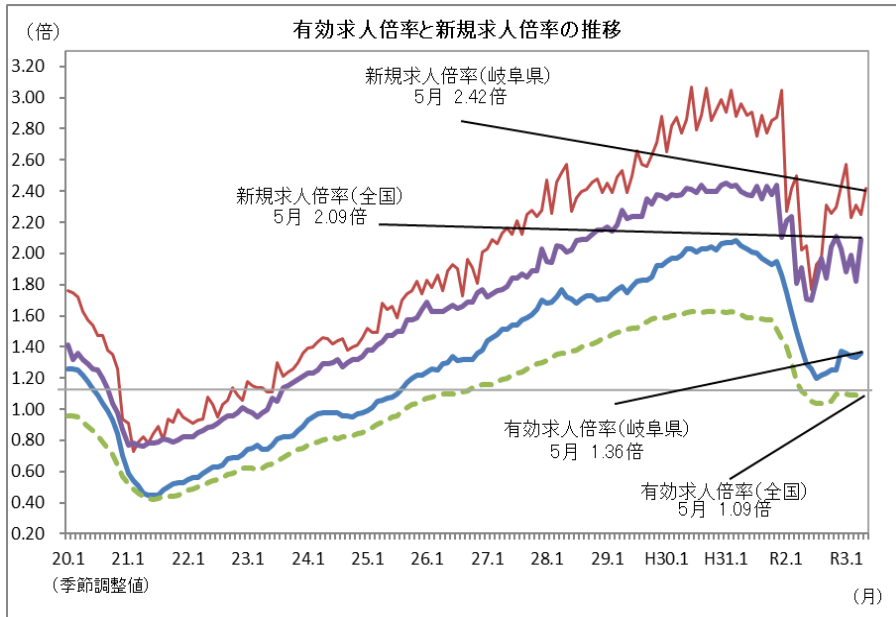
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆ 2021年4月、金融機関が中小企業への継続的な伴走支援を条件に信用保証料の事業者負担を大幅に引き下げる「伴走支援型特別保証制度」が開始された。金融機関が経営者と経営計画を作成し、情報共有などの支援に取り組むことが期待されている。しかし、既に息切れを起こしている中小零細企業にどれだけの救済力を及ぼすかは不透明で、倒産件数の増加は当初より早まる可能性が出てきた。

雇用

○5月の有効求人倍率は1.36倍と、前月比0.03ポイントと4ヶ月ぶりに上昇した。
 ○5月の新規求人倍率は、2.42倍と同0.17ポイント上昇した。

○5月の雇用保険受給者人員は、前月比▲0.4%と減少した。
 ○有効常用求職者は、全ての年代において11ヶ月連続で前年同月比増加した。



現場の動き

- ◆ 岐阜県の労働力シェアマッチング支援を活用し、航空関連企業からの出向人材を受け入れている。(非鉄金属)
- ◆ 人材の不足感を感じている。人手に余裕のある会社から人材を派遣していただいている。(金属製品)
- ◆ 販売先の多様化に対応するため、新たに営業職を募集している。(食品)
- ◆ 工場の稼働率は改善に向かっており、人手の余剰感は薄らいでいる。(生産用機械器具)
- ◆ 現状の人手に過不足はないため、雇ってもらえないかとの問い合わせはあるが人員を増やしていない。(運輸)
- ◆ 雇止めは行っていないものの、人手が余っている。(繊維)
- ◆ 雇用調整助成金が終了すると、人員整理を検討せざるを得なくなる企業もあると思われる。(金融)

雇 用(職業別)

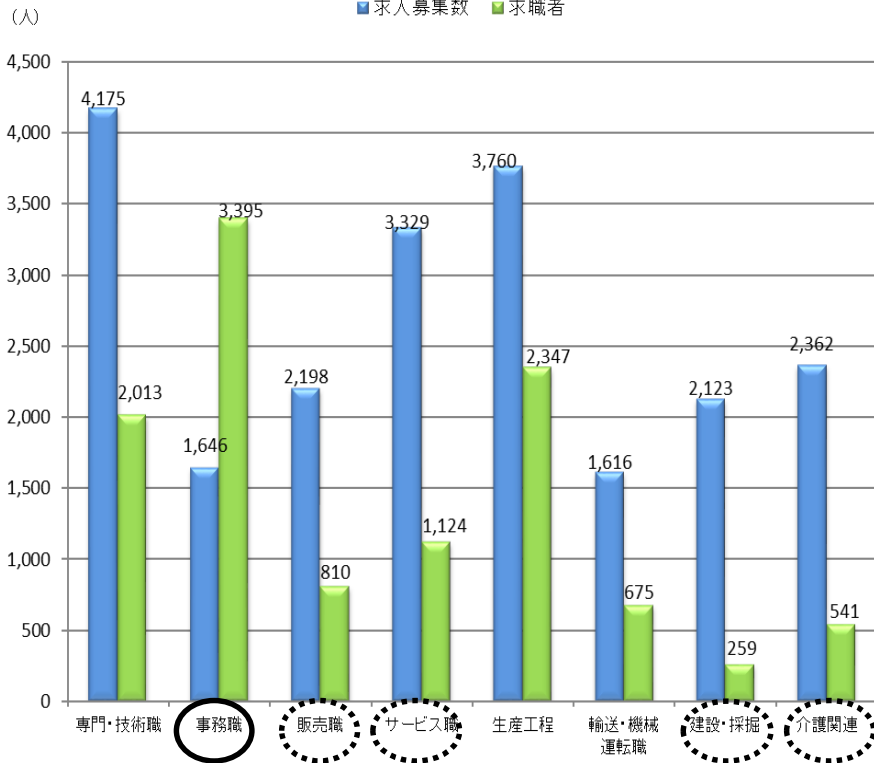
○有効求人倍率は、建設・採掘で8.20倍、介護関連で4.37倍、サービス職で2.96倍、販売職で2.71倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.48倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

○5月の主要産業別の新規求人数は、生産用機械で前年同月比158.0%、輸送用機械で同91.5%、金属製品で同86.0%、電気機械で同75.6%、プラスチック製品で同74.2%、窯業・土石製品で同49.1%、はん用機械で同11.6%と増加し、食料品製造で同▲13.7%、繊維工業で同▲14.3%と減少した。

5月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(常用的フルタイム)

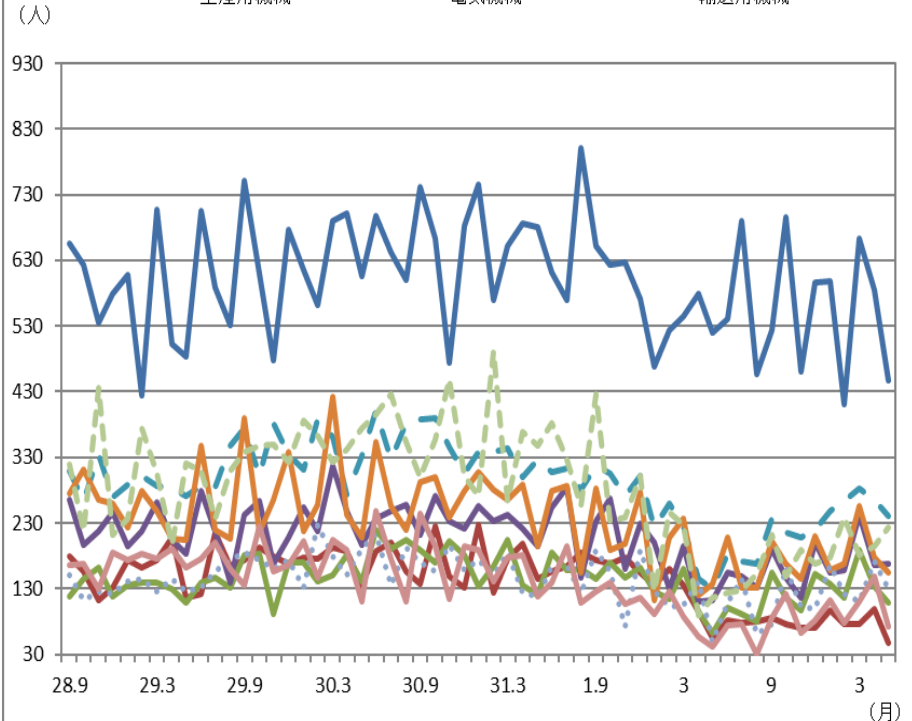
■ 求人募集数 ■ 求職者



資料: 岐阜労働局「求人・求職バランスシート」

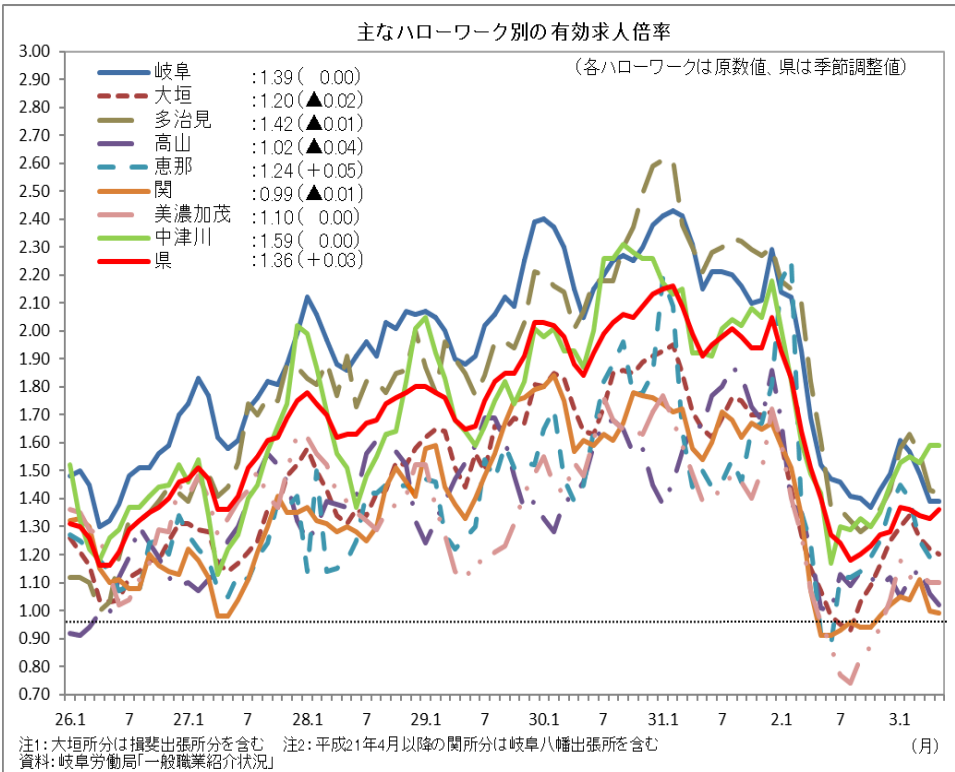
主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移

— 食料品製造 — 繊維工業 — プラスチック製品
 — 窯業・土石製品 — 金属製品 — はん用機械
 生産用機械 — 電気機械 輸送用機械



資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

雇 用(地域別)



○5月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、恵那のみ上昇した。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数は増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は増加、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<窓口の様子> ※前月比

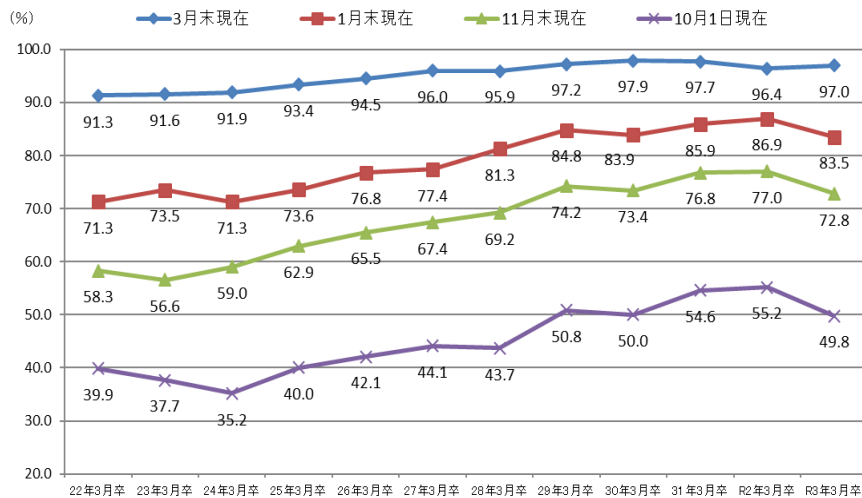
- ◆恵那のみ混雑傾向にある。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の令和3年3月末時点の大学・短大卒業者(令和3年3月卒業)の就職内定率は、97.0%であり、前年同時点と比べ0.6ポイントと上昇した。

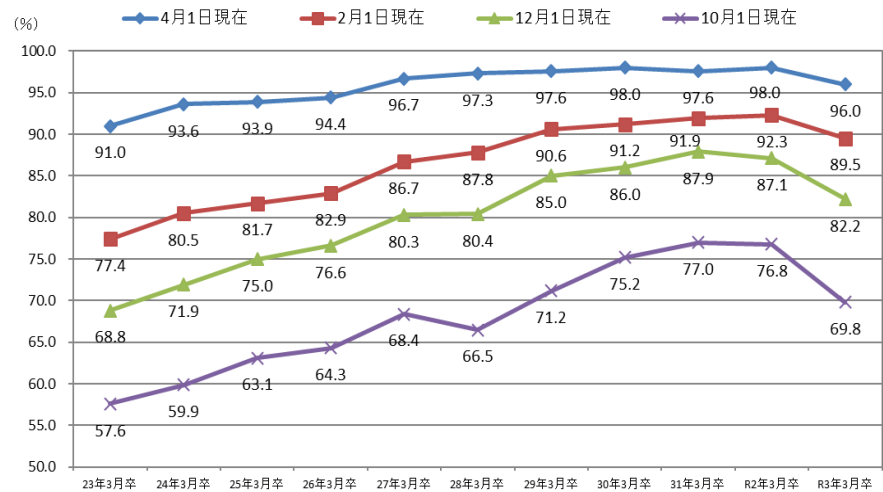
○全国の令和3年4月1日現在の大学卒業者(令和3年3月卒業)内定率は96.0%であり、前年同時点と比べ▲2.0ポイントと低下した。

新規卒業者(大学・短大)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大)の就職内定状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(2022卒の動きなど)

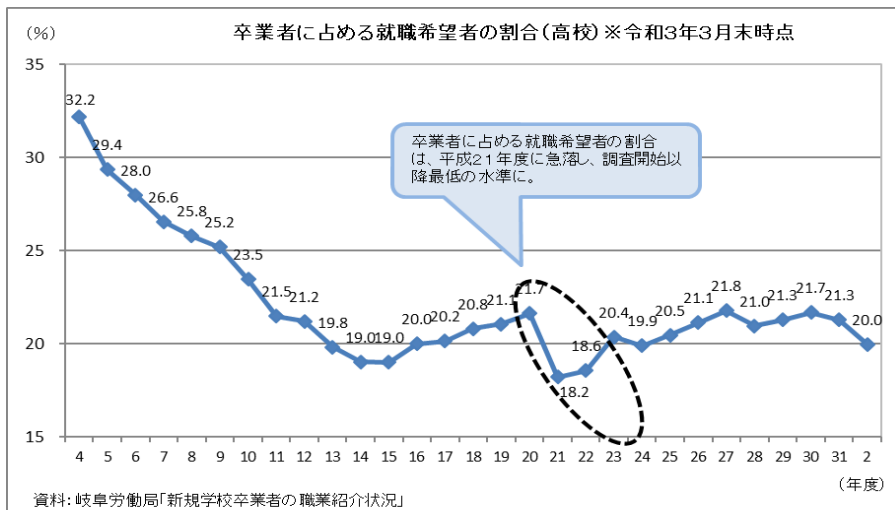
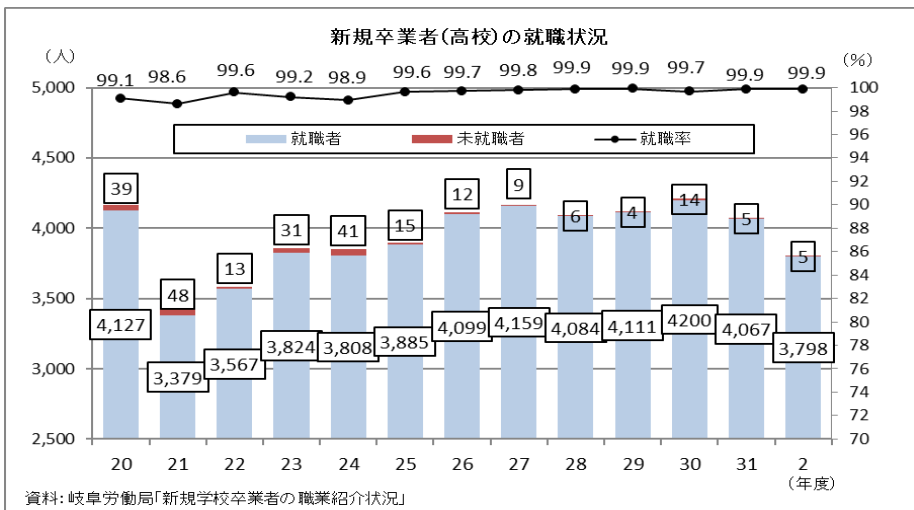
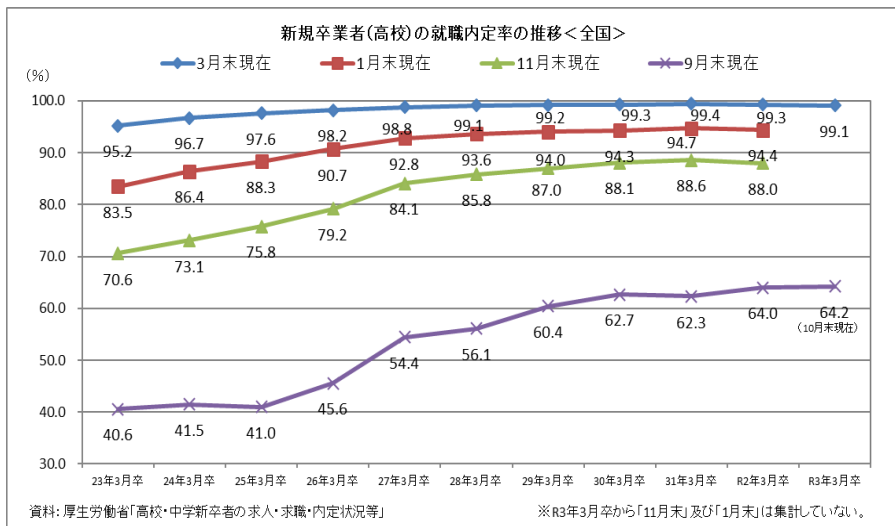
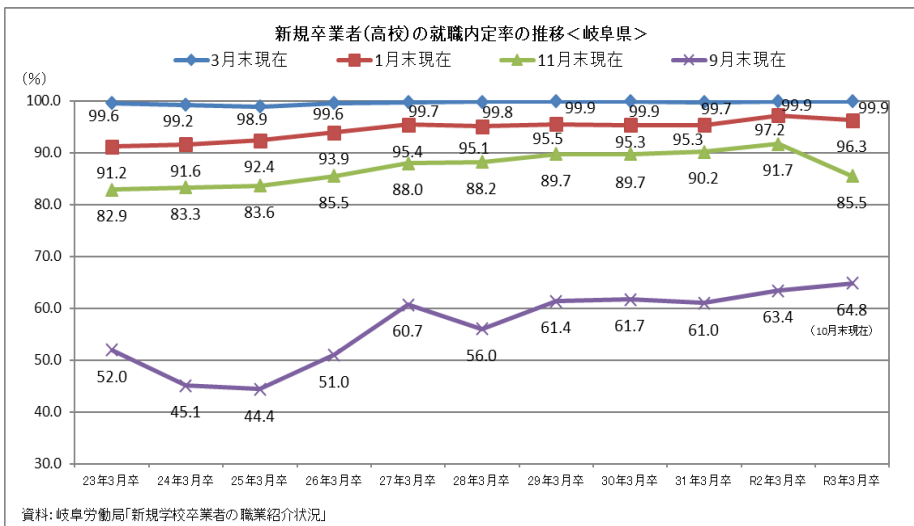
<大学へのヒアリング>

- ◆ 22卒生からの相談はかなり多く、前年同時期と比較しても増加している。
- ◆ 授業が対面中心に戻ったこともあり、授業のついでに相談に立ち寄る学生が増えた。
- ◆ 飲食業界の求人が少し減っている。(以上、岐阜県内大学)
- ◆ 対面で模擬面接をしてほしい、との相談が多い。
- ◆ 23卒の相談もちらほらと増えてきており、相談内容としてはインターンシップのES添削が多い。
- ◆ 留学生を対象とした求人が減って困っている。(以上、愛知県内大学)

雇 用(高校新卒者の就職)

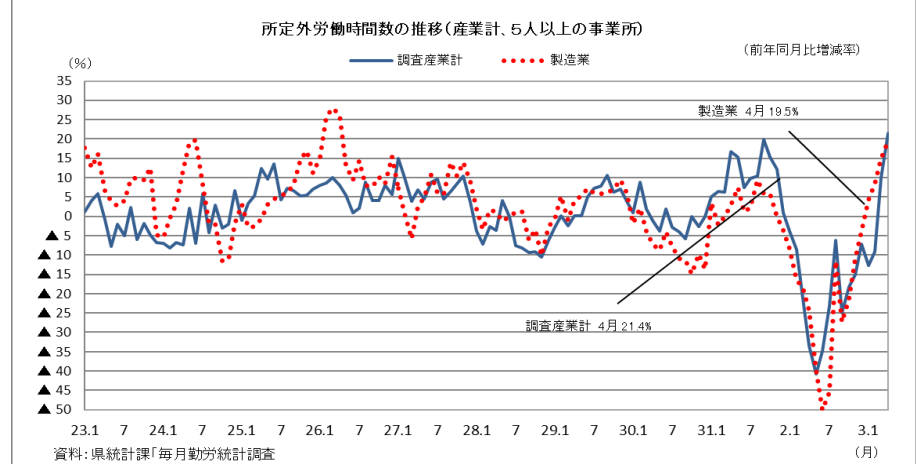
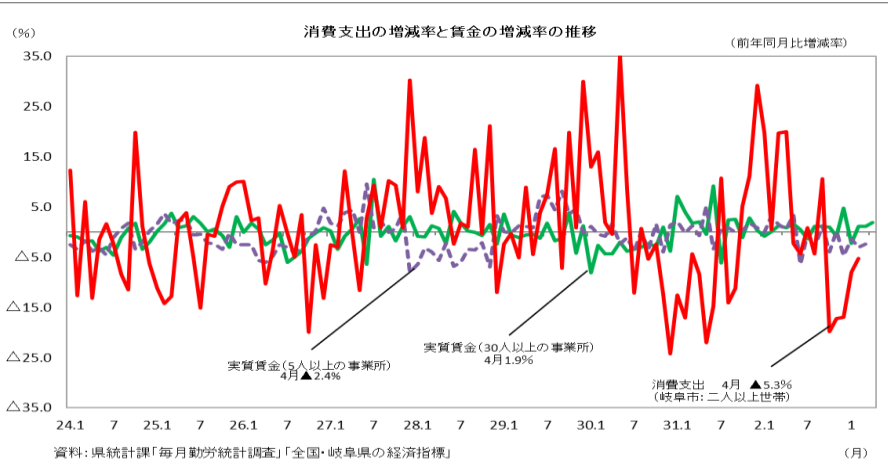
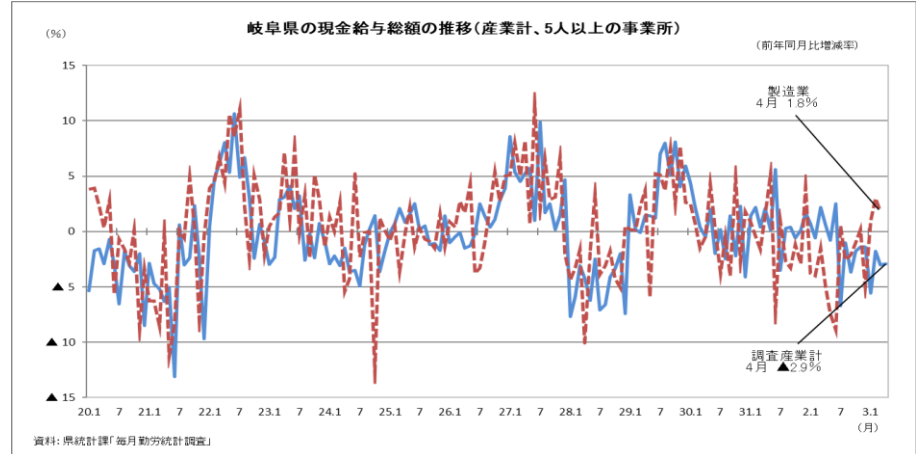
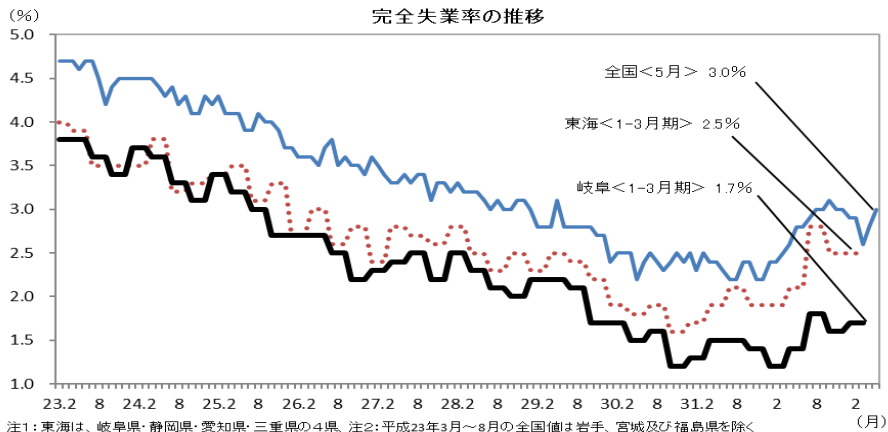
○岐阜県の令和3年3月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は99.9%であり、前年同時期と同水準となった。

○全国の令和3年3月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は99.1%であり、前年同時期と比べて▲0.2ポイント低下した。



雇 用(完全失業率等)

- 全国の5月の完全失業率は3.0%で前月比0.2ポイントと上昇。岐阜県の1-3月期の平均は1.7%で前期比0.1ポイントと上昇。
- 4月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比▲2.9%と減少、製造業で同1.8%と増加。
- 4月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所は前年同月比1.9%、5人以上の事業所は同▲2.4%と減少。4月の消費支出については同▲5.3%と減少した。
- 4月の所定外労働時間数は前年同月比21.4%増加し、2ヶ月連続で増加に転じた。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、4月の鉱工業生産指数が前月比2.1%と上昇。ヒアリングでは、自動車や工作機械等の関係が好調であるとの声があったものの、半導体不足の影響が当地区の企業にも出始めており、先行きを不安視している旨の声が聞かれた。
- 地場産業は、4月の鉱工業生産指数が、パルプ・紙と窯業・土石、繊維工業で低下したものの、食料品で横ばい、木材・木製品、家具で上昇した。ヒアリングでは、木工や家具業界は巣ごもり需要の恩恵を受けているとの声が挙げられた一方、繊維工業からは売上が半減し赤字が続いている、との非常に厳しい声が聞かれた。
- 設備投資は、5月の金属工作機械受注額は、国内、海外向けともに前年を上回った。ヒアリングでは、IT関連や製造工程の自動化といった分野の設備投資の動きが見られ始めた。
- 個人消費は、5月の販売額は、コンビニで前年同月比4.1%、百貨店・スーパーで同0.6%と増加したものの、ホームセンターで同▲10.0%、ドラッグストアで同▲5.4%、家電大型専門店で同▲1.2%と減少し、全体では同▲1.5%と減少した。ヒアリングでは、客足の回復が鈍いため客単価を上げることができるような取り組みを強化している、との声が聞かれた。
- 観光は、不要不急の外出や県をまたぐ移動の自粛が要請されたことも影響し、5月の客数は観光地、宿泊施設ともにコロナ前の前々年同月を下回った。宿泊施設からのヒアリングでは、6月、7月ともに予約に動きがなく、休館日を設定している、など厳しい声が多くあった。
- 企業の資金繰りは、5月の制度融資実績は、件数、金額ともに前年同月比で減少した。減少に転じたのは、それぞれ15ヶ月、18ヶ月ぶり。金融機関からのヒアリングでは、国の事業再構築補助金等の公的支援の効果により、借入需要は弱まっているとの声や、実質無利子・無担保融資によって手元資金に余裕があることも影響して、企業は新たな資金調達に消極的になっているとの声が聞かれた。
- 雇用面は、5月の有効求人倍率が1.36倍と4ヶ月ぶりに上昇した。ヒアリングでは、他社から出向人材を受け入れている企業の動きや、人手の余剰感が薄らいでいるとの声が聞かれたが、雇用調整助成金が終了すると人員整理を検討せざるを得ない企業もある、との厳しい声も聞かれた。